

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 9 月 25 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (9/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	35.1	106.7 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.6 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.1 m ³ /h	47.2	6.19 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	49.3	0.21 kPa g	A系： 0.23 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.23 vol%

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・9/24 18:17 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.6m³/hから約 3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9m³/hから約 2.0m³/hに調整。

・9/25 12:20 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.5m³/hから約 3.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9m³/hから約 2.0m³/hに調整。

【2号機】・9/24 18:17 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.9m³/hから約 5.0m³/hに調整。

【3号機】・9/24 18:17 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.2m³/hから約 2.5m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

<2. 使用済燃料プールの状況> (9/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	29.5
2号機	循環冷却システム	運転中	27.1
3号機	循環冷却システム	運転中	25.0
4号機	循環冷却システム	運転中	32

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

※ 冷却システム停止中のため、至近のデータ(9/25 5:00 現在)を記載。

【1号機】・9/25 9:37 使用済燃料プール代替冷却システム2次系配管のポリエチレン管化等の作業を行うため、同システムを停止(停止時プール水温度:29.0℃)。なお、停止期間は 9/28 までを予定しており、プール水温度の上昇率は約 0.09℃/h と評価していることから、プール水温度の管理に問題はない。

【3号機】・9/22 11:07 頃 3号機原子炉建屋上部の瓦礫撤去作業を行っていたところ、使用済燃料プール脇にあった鉄骨(約 300mm×約 200mm×約 7m、約 470kg)をクレーン先端に取り付けた油圧フォークでつかもうとしていた最中に、当該の鉄骨が使用済燃料プール内に滑り落ちる事象が発生。

11:45 頃 使用済燃料プール代替冷却システムの運転状態およびスキマサージタンクの水位に異常がないことを確認。また、発電所内のモニタリングポストの値、使用済燃料プール周辺の雰囲気線量率、使用済燃料プールの水位に有意な変動は確認されていない。なお、本事象による作業員の負傷はない。

9/24 9:55～13:55 使用済燃料プール内へ滑り落ちた鉄骨の位置や使用済燃料プール内の状況を調査するため、遠隔操作作用の水中カメラにより作業を実施。

9/25 7:00 頃～11:10 頃 使用済燃料プール内へ滑り落ちた鉄骨の位置や使用済燃料プール内の状況を調査するため、遠隔操作作用の水中カメラにより作業を実施。

また、使用済燃料プール水の核種分析の結果は以下の通りであり、有意な変動は確認されていない。

(9月21日採取分)

セシウム 134: $2.4 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $4.0 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満
(検出限界値: $3.4 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$)

(9月22日採取分(事象発生後))

セシウム 134: $2.2 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $3.6 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満
(検出限界値: $1.4 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$)

(9月23日採取分)

セシウム 134: $2.5 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $4.2 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満
(検出限界値: $1.6 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$)

(9月24日採取分)

セシウム 134: $2.4 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $3.9 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満
(検出限界値: $1.6 \times 10^1 \text{Bq/cm}^3$)

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	9/24 10:26 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/24 9:59 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	9/25 10:00 ~ 15:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (9/25 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H24/9/25 11:03 第二セシウム吸着装置の配管部等の健全性確認を目的とした検査を実施するにあたり、同装置を停止することから、タービン建屋の水位の状況等を踏まえて、セシウム吸着装置を起動。

12:59 第二セシウム吸着装置を停止。

<5. その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上